



ひかりのこ

2020年度 **5月号**

日本キリスト教団
名古屋新生教会 教会学校だより
 名古屋市西区天神山3-7 Tel.052-531-1820
 HP: <http://www13.plala.or.jp/n-sinsei-church/>

新型コロナの影響により、社会が混乱した状況が続いています。新学期を迎えた実感がないまま学校の臨時休校も延長され、みなさんもお家から出られない生活にストレスや苦痛を感じているのではないのでしょうか。新型コロナの一日も早い収束を心から祈ります。

今月の礼拝 単元2: 祈り

月日	週題	聖書箇所	教会学校礼拝 (小5~中高生) 9:00~9:30	分級Ⅰ(小1~小4) 分級Ⅱ(小5~中高生) 9:35~9:55	こどもれいはい (幼児~小4) 10:00~10:20
5月3日	主の祈り	マタイ福音書 6:9-15	教会に集まったの 教会学校礼拝・こどもれいはい・分級は、 引き続きお休みです。(大人の礼拝も休止) 裏面に聖書箇所を載せてありますので、 ぜひお家で読んでください。		
5月10日 母の日	熱心に祈る (ハンナの祈り)	サムエル記上 1:1-20			
5月17日	神に感謝する	ルカ福音書 17:11-19			
5月24日	祈りの答え	コリント手紙Ⅱ 12:7-9			
5月31日 ペンテコステ	聖霊降臨	使徒言行録 1:3-11、2:1-13			

「母の日」教会から始まりました

アメリカの小さな町ウェブスターのメソジスト教会に、ジャービス夫人という教会学校の教師がいました。ある日曜日、彼女は「十戒」の中から、両親を敬うべきことを教え、最後にこう語りました。「みなさんの中から、お母さんの愛に心から感謝する方法を教えてください。私は望みます。」その後、ジャービス夫人は亡くなり、追悼集会が開かれました。娘のアンナ・ジャービスは、母の言葉を思い出し、この追悼集会にたくさんのカーネーションを飾って、亡き母を偲び、感謝を表しました。これが人々に大きな感動を与え、いつしか、この習慣は人々の間に広まりました。1914年、アメリカ議会は5月の第2日曜日を「母の日」として決めました。

みなさんもジャービス夫人の言葉「両親を敬うこと」の大切さを思い、「両親からの愛に感謝する方法」を考えてみましょう。

ペンテコステ (聖霊降臨日) 5月31日

「ペンテコステ」とは「50」という意味です。イースターはイエスさまが復活された日。このイースターから40日目の木曜日が「昇天日」、イエスさまが天に昇られた日です。イースターから50日目の聖日が「ペンテコステ」、イエスさまが天に昇られた後、神さまからの聖霊が私たちに降された日です。この「ペンテコステ」の翌週の日曜日が「三位一体主日」で、「父」である神さま・「子」であるイエスさま・神さまからの「聖霊」、この3つが一体のものであると確信された日です。いずれもイエスさまの十字架から続いている暦です。



今月の聖句

「わたしの恵みはあなたに十分である。

力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」

(コリントⅡ 12:9)

今月のさんびか♪

こどもさんびか 17 (てをあわせ)

5月の礼拝では「祈り」について学びます。この賛美歌は、『こどもさんびか』(1966年)に公募作品として掲載されました。作詞者の塚本光子さんは応募当時、横浜の教会員でした。作曲者の田中のぞみさん(1937-)は旧満州奉天に生まれ、幼児洗礼ののち、日曜学校や教会学校に通い、1952年に信仰告白しました。その後、教会学校教師や聖歌隊奉仕に従事、児童保育についても学び幼稚園にも勤務され、通われていた日本キリスト教団 蕃山町教会(岡山市)では礼拝音楽賛美歌指導者として奉仕されました。この曲について田中さんは「詞を読んでいたら自然にメロディーが浮かんできました。お祈りの導入歌として歌ってもらえたら」と語っています。そのように、今の大人の人たちが子どもだった頃の日曜学校や教会学校ではお祈りの前に歌っていた教会も多くあります。大人の人たちにとっては懐かしい賛美歌の一つではないのでしょうか。

名古屋新生教会の教会学校では2017年1月にも「今月のさんびか」として歌いました。今月は「祈り」が礼拝テーマであるということもありますが、教会に集まってみんなで礼拝を守ることができず、それぞれの家で礼拝を守る際、あるいはちょっとしたときに祈ることを思い出した時、どんなときにでも簡単に歌える短い賛美歌ですので、今回再び「今月のさんびか」としました。みんなで集まって歌うことはできませんが、ぜひ覚えて歌ってみてください。みなさん一人ひとりの祈りも神さまは必ず受け取ってくださいます。

17 てをあわせ

てをあわせ めをとじて
 みんなしずかに いたしましょう かみさま ほくのわたしの
 おいのりを きいてください ささげます

手をあわせ 目をとじて
 みんな しずかに いたしましょう
 神さま
 ほくの わたしの おいのりを
 聞いてください ささげます

▶礼拝 祈り
 詞: 塚本光子 曲: 田中のぞみ
 ♪=88

おたんじょうびおめでとう🎂

5月生まれのお友だち

教会に集まったの 教会学校礼拝・こどもれいはいは休止ですが、日曜日ごとにそれぞれのお家で礼拝を守りましょう。「礼拝って言われても…」と思うかもしれませんが、聖書を読んで、静かにお祈りをするだけでも、神さまは祈りを聞き入れてくださいます。礼拝予定の聖書箇所を載せておきますので、お読みいただいて、自分なりに何かを考え、お祈りをしていただけたら幸いです。みなさんと一緒に教会で礼拝を守れる日が早く来ることを祈りつつ。

5月3日（日）

◇週題：主の祈り

◇聖書：マタイによる福音書 6章9～15節

だから、こう祈りなさい。
『天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように。御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも。わたしたちに必要な糧を今日与えてください。わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください。』
もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。」

5月10日（日）母の日

◇週題：熱心に祈る（ハンナの祈り）

◇聖書：サムエル記上 1章1～20節

エフライムの山地ラマタイム・ツォフィムに一人の男がいた。名をエルカナといい、その家系をさかのぼると、エロハム、エリフ、トフ、エフライム人のツフに至る。エルカナには二人の妻があった。一人はハンナ、もう一人はペニナで、ペニナには子供があったが、ハンナには子供がなかった。エルカナは毎年自分の町からシロに上り、万軍の主を礼拝し、いけにえをささげていた。シロには、エリの二人の息子ホフニとピネハスがおり、祭司として主に仕えていた。いけにえをささげる日には、エルカナは妻ペニナとその息子たち、娘たちにそれぞれの分け前を与え、ハンナには一人分を与えた。彼はハンナを愛していたが、主はハンナの胎を閉ざしておられた。彼女を敵と見るペニナは、主が子供をお授けにならないことでハンナを思い悩ませ、苦しめた。毎年このようにして、ハンナが主の家に上るたびに、彼女はペニナのことで苦しんだ。今度もハンナは泣いて、何も食べようとしなかった。夫エルカナはハンナに言った。「ハンナよ、なぜ泣くのか。なぜ食べないのか。なぜぶさぎ込んでいるのか。このわたしは、あなたにとって十人の息子にもまさるではないか。」さて、シロでのいけにえの食事が終わり、ハンナは立ち上がった。祭司エリは主の神殿の柱に近い席に着いていた。ハンナは悩み嘆いて主に祈り、激しく泣いた。そして、誓いを立てて言った。「万軍の主よ、はしための苦しみを御覧ください。はしために御心を留め、忘れることなく、男の子をお授けくださいますなら、その子の一生を主におささげし、その子の頭には決してかみそりを当てません。」

ハンナが主の御前であまりにも長く祈っているので、エリは彼女の口もとを注意して見た。ハンナは心のうちで祈っていて、唇は動いていたが声は聞こえなかった。エリは彼女が酒に酔っているのだと思い、彼女に言った。「いつまで酔っているのか。酔いをさましてきなさい。」ハンナは答えた。「いいえ、祭司様、違います。わたしは深い悩みを持った女です。ぶどう酒も強い酒も飲んではおりません。ただ、主の御前に心からの願いを注ぎ出しておりました。はしために墮落した女だと誤解なされないでください。今まで祈っていたのは、訴えたいこと、苦しいことが多くあるからです。」そこでエリは、「安心して帰りなさい。イスラエルの神が、あなたの乞い願うことをかなえてくださるように」と答えた。ハンナは、「はしために御厚意を得ますように」と言ってそこを離れた。それから食事をしたが、彼女の表情はもはや前のようではなかった。一家は朝早く起きて主の御前で礼拝し、ラマにある自分たちの家に帰って行った。

エルカナは妻ハンナを知った。主は彼女を御心に留められ、ハンナは身ごもり、月が満ちて男の子を産んだ。主に願って得た子供なので、その名をサムエル（その名は神）と名付けた。

5月17日（日）

◇週題：神に感謝する

◇聖書：ルカによる福音書 17章11～19節

イエスはエルサレムへ上る途中、サマリアとガリラヤの間を通られた。ある村に入ると、重い皮膚病を患っている十人の人が出迎え、遠くの方に立ち止まったまま、声を張り上げて、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と言った。イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、そこへ行く途中で清くされた。その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だった。そこで、イエスは言われた。「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。」それから、イエスはその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

5月24日（日）

◇週題：祈りの答え

◇聖書：コリントの信徒への手紙Ⅱ 12章7～9節

また、あの啓示された事があまりにもすばらしいからです。それで、そのために思い上がることのないようにと、わたしの身に一つのとげが与えられました。それは、思い上がらないように、わたしを痛めつけるために、サタンから送られた使いです。この使いについて、離れ去らせてくださるよう、わたしは三度主に願いました。すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

5月31日（日）ペンテコステ(聖霊降臨日) ◇週題：聖霊降臨

◇聖書：使徒言行録 1章3～11節、2章1～13節

(1章3～11節) イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。ヨハネは水で洗礼を受けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を受けられるからである。」

さて、使徒たちは集まって、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた。イエスは言われた。「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。イエスが離れ去って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。すると、白い服を着た二人の人がそばに立って、言った。「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」

(2章1～13節) 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。

さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」人々は皆驚き、とまどい、「いったい、これはどういうことなのか」と互いに言った。しかし、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、あざける者もいた。